



Future  
From  
Fukushima.

ふくしまから  
はじめよう。



福島の今を  
届けている皆さんに  
お話を聞いたよ!



特集

# 共感の輪を広げる

～ふくしまの今を発信～

県では、「風評・風化対策強化戦略(第1版)」を策定し、農林水産物の市場価格や観光客入込数などが震災前の水準に回復することを目指しています。ふくしまブランドの再生・構築に向けて、本県の現状や復興の状況、食や観光の

魅力を丁寧に伝えながら、国内外の多くの方々に共感の輪を広げる取り組みを行っています。今回は、生産者の思いや食品の安全性など、さまざまな立場から発信している皆さんの姿をご紹介します。



この言葉のもと、皆さんと力を合わせて取り組むを二つ二つ積み重ね、これまで頂いた多くの支援に感謝し、しっかりと応えていく「福島思い」を発信していきます。

現在、県産農林水産物の風評払拭のために、たゆまぬ努力と愛情を注ぎ栽培する生産者の誇りをその高い品質とともに「ふくしまプライド。」という言葉に凝縮し全国に発信しています。

震災と原発事故による風評と風化という困難な課題に打ち勝つためには、安全・安心の確保に向けた取り組みを土台として、福島の魅力と懸命な努力を続ける県民の姿を丁寧に発信し、多くの方々に共感の輪を広げていくことが大切であると考えています。



知事  
メッセージ

「福島思い」を  
伝える

福島県知事 内堀 雅雄

大学卒業後、実家で農業を始めて今年で14年目になります。昼夜の寒暖差が激しい会津特有の気候の中で、ミネラル豊富な雪解け水を使って育てたお米の味には自信があります。また、一農家としてだけでなく、地域の担い手としても努力しています。地元では後継者不足が心配されています。農業を頑張る若者がいることをもっと知ってほしくて、喜多方市の若手農業者のサークルで直売会や情報交換会を行っています。若い人に興味を持ってもらい、新規就農する人が増えてくれたらと思います。

## 農業を担う若者がいる ことを知ってほしい

テレビCM  
ふくしまプライド  
「安全安心お米」篇に  
出演しました！



### 喜多方市

あんど まさおみ  
**安藤 正臣さん**

大学卒業後、実家に戻って農業を始める。今は約9ヘクタールの田んぼで県オリジナル品種「天のつぶ」などを作付している。



## 安全でおいしい お米を届けたい

食べ物は生きていく上での糧であり、日々の生活において絶対に必要なものです。そして、皆さんにとってはおいしいものを食べる楽しさもありますよね。だからこそ、安全なもの、より品質の良いものを届けたいです。自分が作った食べ物を食卓で囲んでもらって、家族がコミュニケーションを取るきっかけになればうれしいですね。

## 福島のおいしさと元気を届けました

11月6日から8日までの3日間、東京の日本橋ふくしま館「MIDETTE」(ミデッテ)で、県内の農業、水産高校14校、約40人の高校生が実習で生産した米、ジャムやケーキ、魚の缶詰など約40種類を販売。福島のおいしさと元気をPRしました。



各高校では、将来の担い手育成や販売方法を体験的に学ぶ機会の充実につながるため、学校内での販売や期間限定でインターネット販売を行っています。詳しくは各高校にお問い合わせください。

地元の店舗で販売したことはありましたが、東京で販売するのは初めてなので、買ってもらえるか心配でした。最初は緊張したけど、「自分たちが作ったので安心です」「福島で元気に頑張ってます」とPRできて、たくさん買っていただいたのでうれしかったです。

### 福島明成高校 3年

やました かな  
**山下 華奈さん(写真左)**

せいの みさき  
**清野 光咲さん(写真中央)**

さとう みな  
**佐藤 三奈さん(写真右)**





安全で  
おいしい果物  
をお届けします

**福島市**  
ふくしま土壌クラブ代表  
たかはし けんいち  
**高橋 賢一さん**

震災後、福島市内の若手果樹経営者たちと風評の払拭や産地再生に取り組む。桃、梨、リンゴを生産している。



**安全性と品質を  
追求しています**

活動のきっかけは、果樹栽培者同士の勉強会です。震災後は、何をどうしていいのか分からず、自分たちができることから始めてみようということ。土壌の放射線量測定や安全に関する情報発信といった活動をしています。福島大学うつくしまふくしま未来支援センターと連携して復興マルシェに参加したり、果樹経営再生に向けた研究も行っています。風評で以前のように戻っていませんが、一発逆転の策はないので、継続して活動することが回復につながると思っています。

**サポーターを  
増やしたい**



もともと、おいしい果物を皆さんに届けたいという思いがありました。が、人に伝える、発信するというのは難しいですね。  
これからは、福島の果物をいろいろな方に知ってもらうきっかけづくりを力を入れていきたいです。多くの方に来てもらって、興味を持ってもらい、サポーターをつくりたいです。ホームページやチラシで情報を流すのももちろん、サポーターを核に情報を共有して、口コミでどんどん広がっていくような方がいいですね。

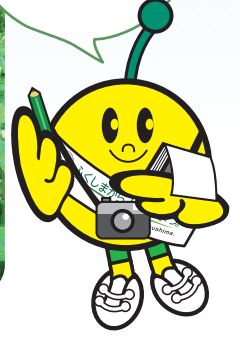
### 高校生が伝えるふくしま食べる通信

福島で農産物を作る生産者を特集し、付録としてその生産者のこだわりの食材がセットで付いてくる「食べ物付き情報誌」。初代編集長の菅野智香さん(高3)の「農家の皆さんの思いを伝えることで福島を好きになってもらい、風評を払拭したい」という志を受け継ぎ、生産者の今を届けています。「自分たちでできることを増やしていこう」と福島の将来を真剣に考えている高校生たちの熱い思いが伝わってきます。



秋号を取材中の編集部員の皆さん

高校生が  
生産者の今を  
発信しているよ!



購読方法など詳しくは、

高校生編集部員を募集中。 閤koufuku@taberu.me までメールで



秋号の編集長として大変なことはたくさんあったけど、自分の中で成長しているのを感じていて楽しいですし、やりがいがあります。  
にしむら かずま  
安積高校 2年 **西村 知真さん**



秋号から編集部に参加しました。初めての取材ではみんなに圧倒されてしまってたけど、次号からはバリバリ頑張ります。  
みさわ ゆうか  
福島高校 2年 **三澤 由佳さん**



農家の皆さんの思いを読者に文字で伝えるというのは難しいと思いますが、冬号でもどれだけ伝えられるか挑戦したいと思います。  
とがし めい  
安積高校 2年 **富樫 芽生さん**



将来は農家をやりたと思っています。多くの先輩方と出会い、学べる機会を大事にしていきたいです。  
こくぶん たかなり  
安積高校 2年 **國分 隆成さん**

